

将来人口推計

令和4（2022）年 5月

江 別 市

= 目 次 =

I	推計の方法.....	1
1	推計法と基準人口.....	1
2	変化率の設定について.....	1
3	男女別・年齢5歳階級別人口の推計方法.....	2
II	推計結果.....	4
1	総人口.....	4
2	年齢3区分別人口.....	5
3	年齢5歳階級別人口.....	7
III	第7次江別市総合計画目標年次の将来人口見込み.....	9
1	将来人口見込みの算出方法.....	9
2	総人口.....	9
3	年齢3区分別人口.....	10
4	年齢5歳階級別人口.....	11

I 推計の方法

1 推計法と基準人口

本推計は、令和6（2024）年度を始期とする「第7次江別市総合計画」を策定するにあたり、将来人口（総人口や年齢別人口構成等）を見通すために、コーホート変化率法を用いて人口推計を行うものです。

コーホートとは、ある年（期間）に生まれた人口集団を意味します。本推計では、男女別・年齢5歳階級別の人口集団を1つのコーホートとして、男女別の〔0～4歳〕から〔90歳以上〕までの合計38のコーホートごとに推計を行いました。（各コーホートの推計値の合計が、総人口の推計値になります。）

変化率法とは、コーホートごとに過去の人口増減実績から変化率を算出し、その人口増減状況がその後も継続するものと仮定して将来を推計するものです。

推計に用いたデータは総務省が公表した国勢調査結果で、基準人口（直近の人口実績）は令和2（2020）年の10月1日です。

2 変化率の設定について

男女別・年齢5歳階級別の各コーホートは、5年ごとに年齢階級が1つ上の階級に移行します。その間の人口増減率が変化率で、コーホートごとに、5年間の転入・転出数、死亡数によって決定されます。（〔0～4歳〕の推計方法は別途記載。）

江別市の人口は、少子高齢化などにより平成17（2005）年をピークに減少に転じましたが、近年の大規模な宅地造成などにより、令和2（2020）年の国勢調査ではわずかに増加しました。しかしながら、現時点においては、当面、このような大規模宅地造成の見込みがないため、近年の一時的で大幅な人口増加が将来人口推計に及ぼす影響を緩和させる必要があることから、今回の人口推計においては、過去3回の変化率の平均値（3回平均変化率）を使用しました。（直近15年間の変化状況が反映されることになります。）

■ 3回平均変化率の算出方法（男性・〔35～39歳〕の変化率算出例）

【男性】	国勢調査実績値			
	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
〔30～34歳〕				
〔35～39歳〕				



※上記の場合、男性〔30～34歳〕が5年後に男性〔35～39歳〕に移行する歳の3回平均変化率を、〔変化率①+変化率②+変化率③〕÷3 で算出します。

なお、国勢調査結果には年齢不詳の人口が存在するため、変化率の算出にあたり、年齢不詳人口は、男女別・年齢5歳階級別の各コーホートの人口に応じて按分（振り分け加算）しました。

3 男女別・年齢5歳階級別人口の推計方法

(1) [5～9歳] から [85～89歳] の推計方法

[5～9歳] から [85～89歳] までの各コーホートの推計人口は、年齢階級が1つ下の [0～4歳] から [80～84歳] の各コーホートにそれぞれの変化率（3回平均変化率）を乗じて算出します。

■ [5～9歳] から [85～89歳] の推計方法（例）

【男性】	実績値	推計値			
	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)
[30～34歳]	●●人				
[35～39歳]		▲▲人			

※ 矢印は「変化率」を示しています。

令和7（2025）年の男性 [35～39歳] の推計値（▲▲人）＝
 令和2（2020）年の男性 [30～34歳]（●●人）× 男性 [35～39歳] の変化率
 で推計します。令和12（2030）年以降も、同様の方法により推計します。

(2) [90歳以上] の推計方法

最高年齢階級である [90歳以上] の推計については、5年前の [85～89歳] と [90歳以上] が、5年後に [90歳以上] に移行するものとして変化率を算出し、将来人口を推計します。

(3) [0～4歳] の推計方法

[0～4歳] は、5年前には存在しないため、15歳から49歳の女性人口に比例して存在するものと仮定して、男女別に出現率（3回平均）を算出して将来人口を推計します。

なお、本推計は、合計38のコーホートごとに推計を行うもので、総人口や年齢3区分別人口などは、それぞれ該当するコーホートの推計値を合算したものです。合算値相互の不整合（四捨五入による誤差）が生じないように、本推計では、各コーホートの推計値を算出した段階で、小数点第一位を四捨五入して整数値化しています。

■推計に使用した変化率

区 分	使用した変化率 (3回平均変化率)	
	男性	女性
0～4歳（出現率）	0.08030	0.07785
0～4歳 ⇒ 5～9歳	1.17034	1.17228
5～9歳 ⇒ 10～14歳	1.06951	1.07089
10～14歳 ⇒ 15～19歳	1.31050	1.20709
15～19歳 ⇒ 20～24歳	0.93694	0.89905
20～24歳 ⇒ 25～29歳	0.48227	0.61412
25～29歳 ⇒ 30～34歳	1.02151	1.02254
30～34歳 ⇒ 35～39歳	1.08752	1.09613
35～39歳 ⇒ 40～44歳	1.04502	1.05879
40～44歳 ⇒ 45～49歳	1.00765	1.01044
45～49歳 ⇒ 50～54歳	0.99440	0.99178
50～54歳 ⇒ 55～59歳	1.00746	0.99480
55～59歳 ⇒ 60～64歳	1.03700	1.00029
60～64歳 ⇒ 65～69歳	0.97631	0.98633
65～69歳 ⇒ 70～74歳	0.94196	0.97324
70～74歳 ⇒ 75～79歳	0.88401	0.95802
75～79歳 ⇒ 80～84歳	0.80398	0.92376
80～84歳 ⇒ 85～89歳	0.67202	0.83409
85歳以上 ⇒ 90歳以上	0.44647	0.54388

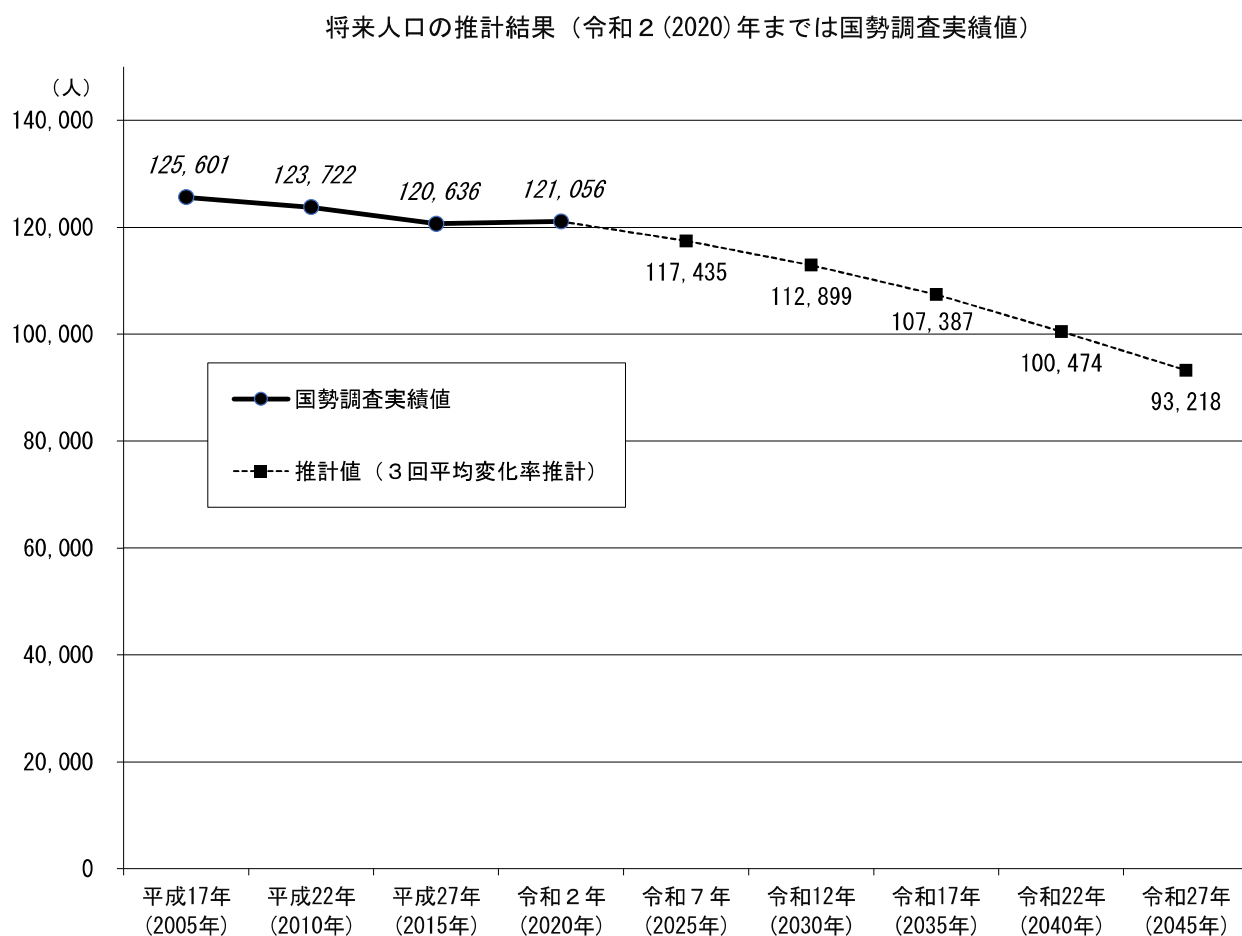
※3回平均変化率とは、国勢調査結果から算出した、平成17（2005）年 → 平成22（2010）年、平成22（2010）年 → 平成27（2015）年、平成27（2015）年 → 令和2（2020）年の、直近3回分の変化率の平均値。

Ⅱ 推計結果

1 総人口

総人口は、令和2（2020）年以降、減少を続け、5年ごとの減少数、減少率ともに次第に大きくなっていくことが推計されました。

その結果、令和22（2040）年の総人口は約10万人となり、その後は10万人を下回ることが見込まれます。



■ 5年間の人口増減数と人口増減率

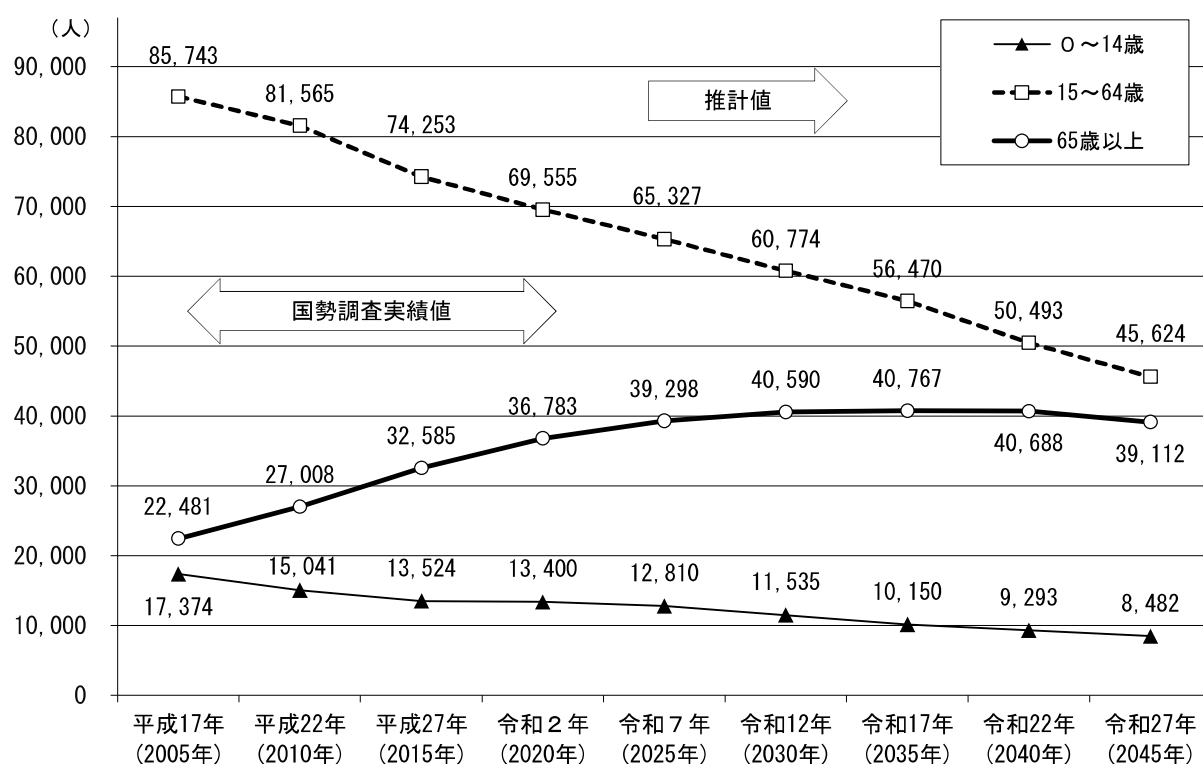
	国勢調査実績値			推 計 値				
	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)
増減数(人)	▲ 1,879	▲ 3,086	420	▲ 3,621	▲ 4,536	▲ 5,512	▲ 6,913	▲ 7,256
増減率(%)	▲ 1.5	▲ 2.5	0.3	▲ 3.0	▲ 3.9	▲ 4.9	▲ 6.4	▲ 7.2

2 年齢3区分別人口

年齢3区分別の人口は、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）がこれまでと同様に減少を続けます。

一方、老年人口（65歳以上）は、これまでと同様に当面増加を続けますが、次第に増加が緩やかになり、令和17（2035）年をピークに減少に転じることが推計されました。

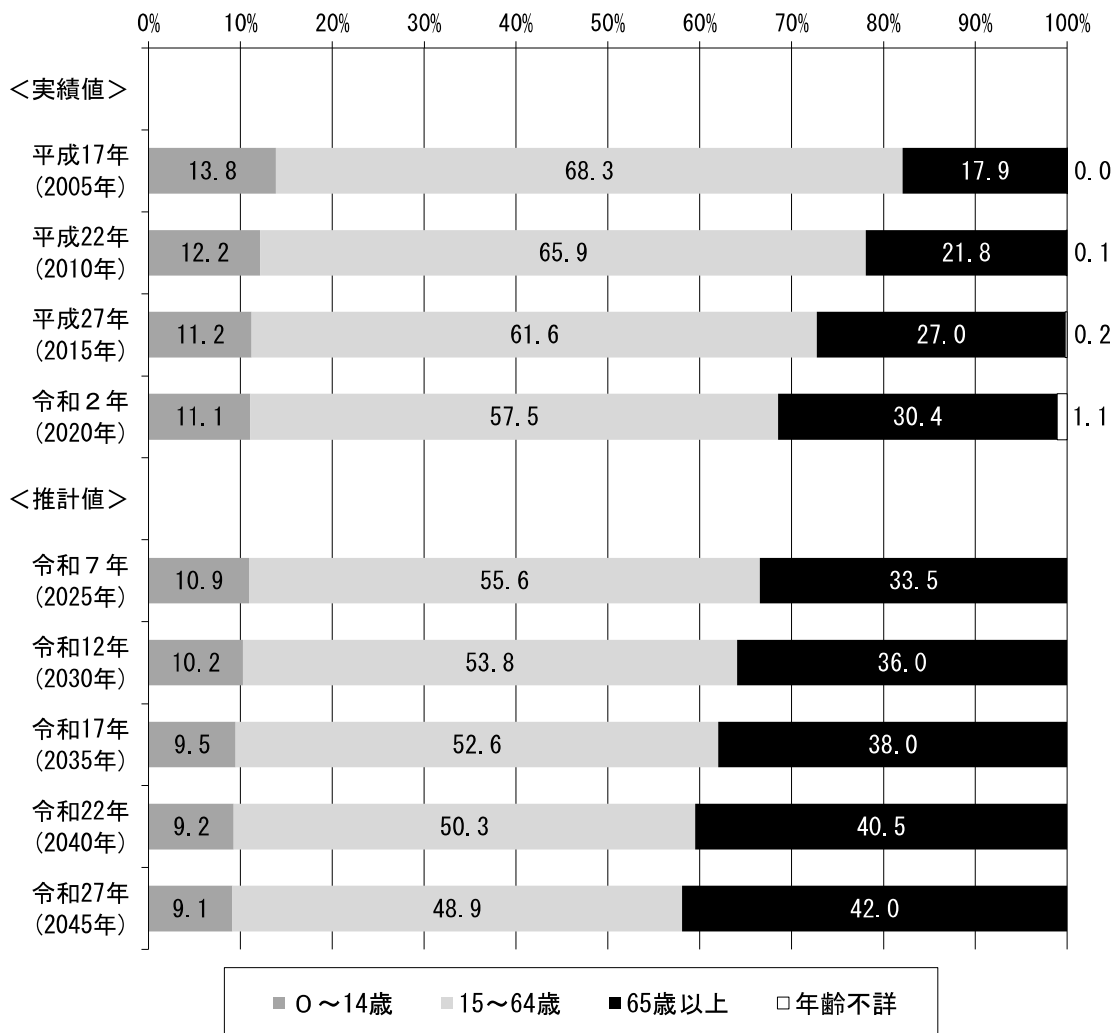
年齢3区分別人口の推計結果（令和2（2020）年までは国勢調査実績値）



年齢3区分別人口の構成比は、これまでと同様に、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の縮小、老年人口（65歳以上）の拡大が続き、令和22（2040）年には、老年人口（65歳以上）の構成比が40%を超えることが推計されました。

一方、年少人口（0～14歳）は、令和17（2035）年までに10%未満に、生産年齢人口（15～64歳）は、2045（令和27）年までに50%未満になることが見込まれます。

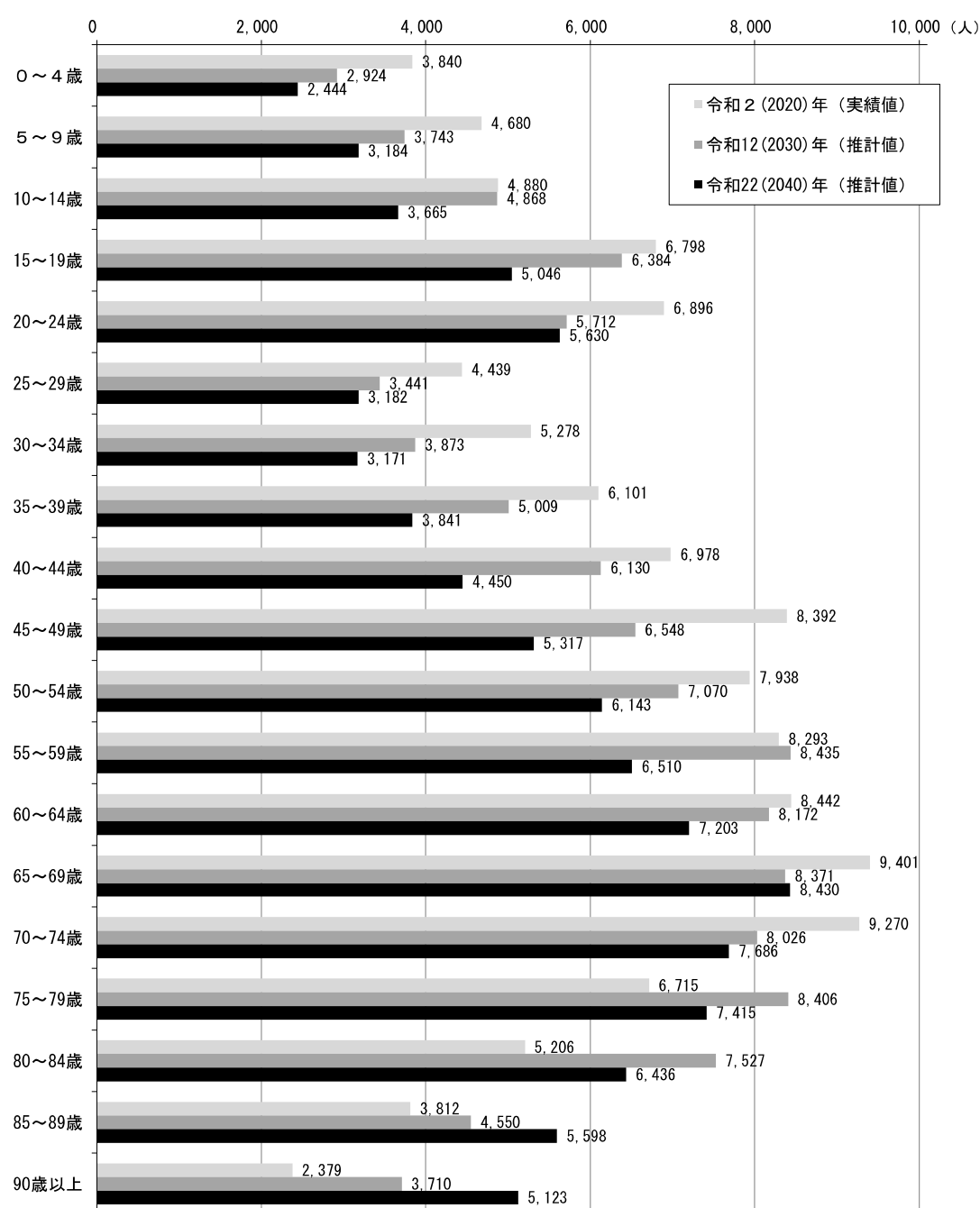
年齢3区分別推計人口構成比（令和2（2020）年までは国勢調査実績値）



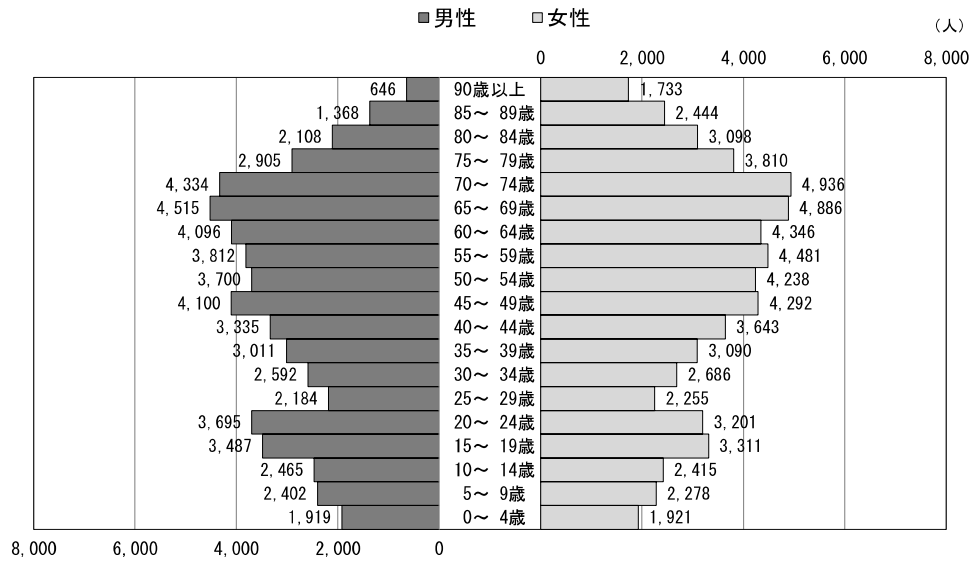
3 年齢5歳階級別人口

年齢5歳階級別の人口について、基準年である令和2（2020）年の実績値と令和12（2030）年、令和22（2040）年の10年ごとの推計値を比較すると、74歳以下の年齢階級が減少傾向、85歳以上の年齢階級が増加し、少子高齢化が今後も進行することが推計されています。また、75歳から84歳の年齢階級は、令和12（2030）年には大きく増加するものの、令和22（2040）年には減少に転じることが推計されています。

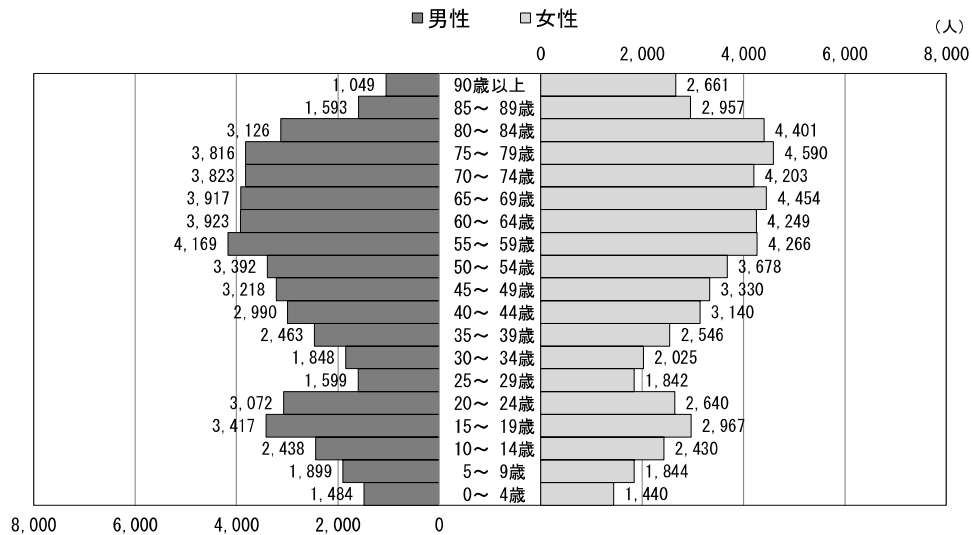
年齢5歳階級別推計人口（令和2（2020）年は国勢調査実績値）



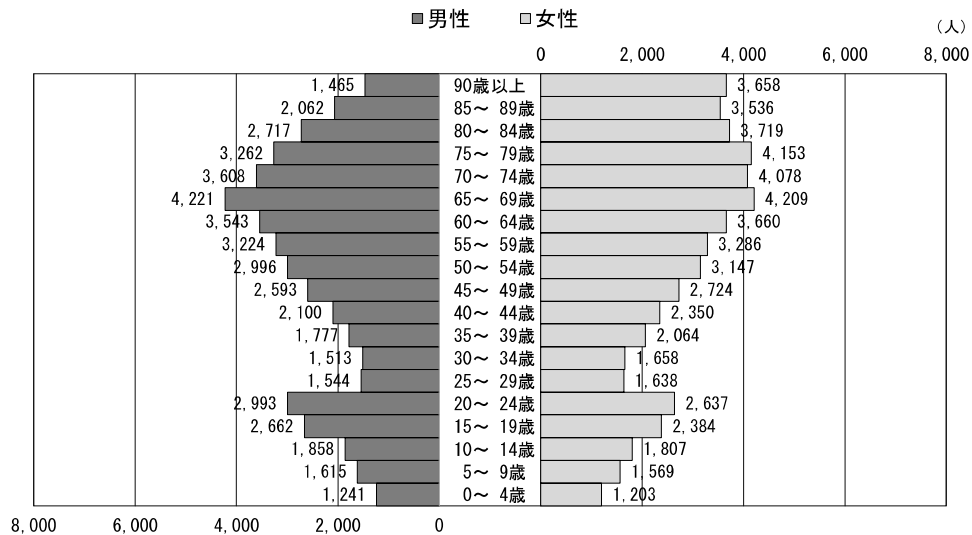
令和2(2020)年人口ピラミッド【国勢調査実績値】



令和12(2030)年人口ピラミッド【推計値】



令和22(2040)年人口ピラミッド【推計値】



Ⅲ 第7次江別市総合計画目標年次の将来人口見込み

1 将来人口見込みの算出方法

コーホート変化率法による人口推計結果をもとに、「第7次江別市総合計画」の目標年である令和15（2033）年と中間年（前期5か年終了年度）である令和10（2028）年の将来人口を以下の方法により推定します。

国勢調査結果を使用したコーホート推計は、5年おきの国勢調査実施年の推計値が算出されます。「第7次江別市総合計画」の中間年と目標年は国勢調査の実施年ではなく、推計値が算出されていないため、前後2回の推計値を線形補間（期間按分）することにより、令和10（2028）年と令和15（2033）年の将来人口を推定しました。（各年10月1日が基準日になります。）

なお、線形補間（期間按分）は、男女別・年齢5歳階級別のコーホートごとに行い、コーホートごとに小数点第一位を四捨五入して整数値化しました。総人口や年齢3区分別人口などは、それぞれ該当するコーホートの人口を合算したものです。

2 総人口

江別市の総人口は、基準年である令和2（2020）年以降、減少が続き、第7次江別市総合計画の中間年である令和10（2028）年は11万4,714人、目標年である令和15（2033）年は10万9,594人と推定されました。基準年である令和2（2020）年に対して、中間年（令和10年）で6,342人（▲5.2%）、目標年（令和15年）で1万1,462人（▲9.5%）の減少が見込まれています。

■第7次総合計画の中間年、目標年の総人口（線形補間値）

国調 実績値	推 計 値（人）																
	補間値					推計年	補間値					推計年	補間値				
R2年 (2020)	R3年 (2021)	R4年 (2022)	R5年 (2023)	R6年 (2024)	R7年 (2025)	R8年 (2026)	R9年 (2027)	R10年 (2028)	R11年 (2029)	R12年 (2030)	R13年 (2031)	R14年 (2032)	R15年 (2033)	R16年 (2034)	R17年 (2035)		
121,056	120,334	119,605	118,886	118,157	117,435	116,524	115,620	114,714	113,810	112,899	111,800	110,692	109,594	108,486	107,387		

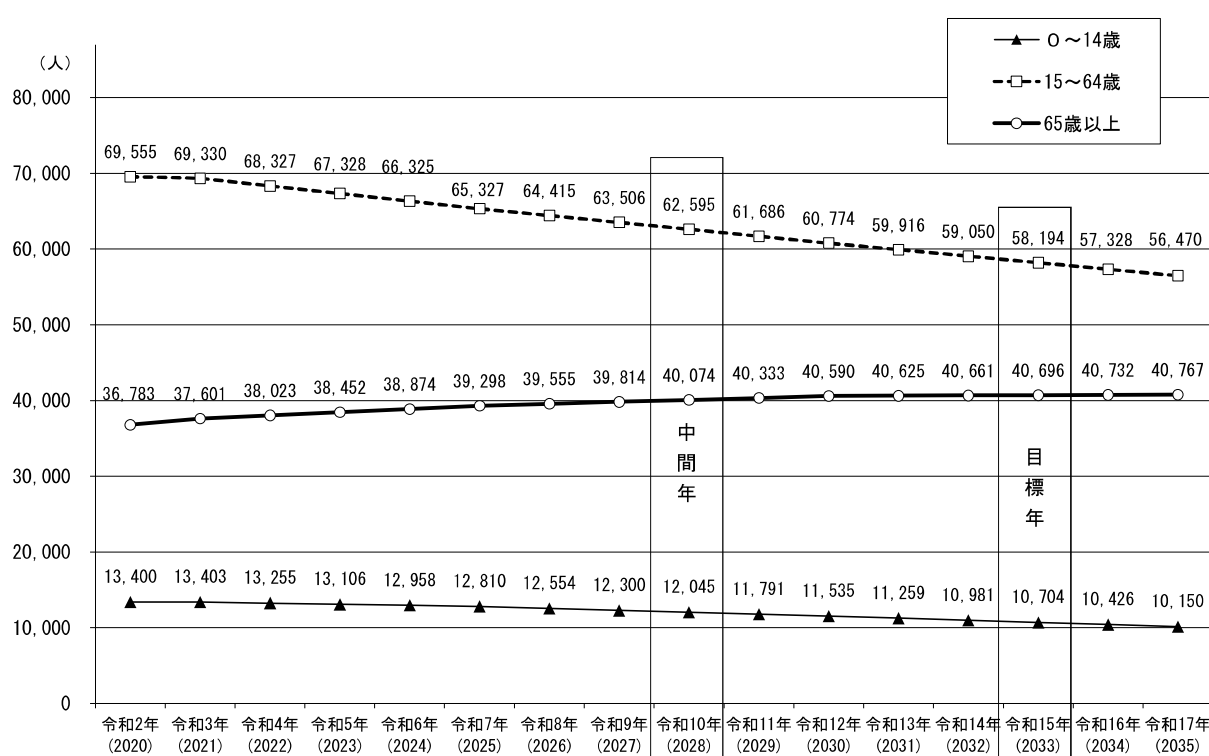

中間年


目標年

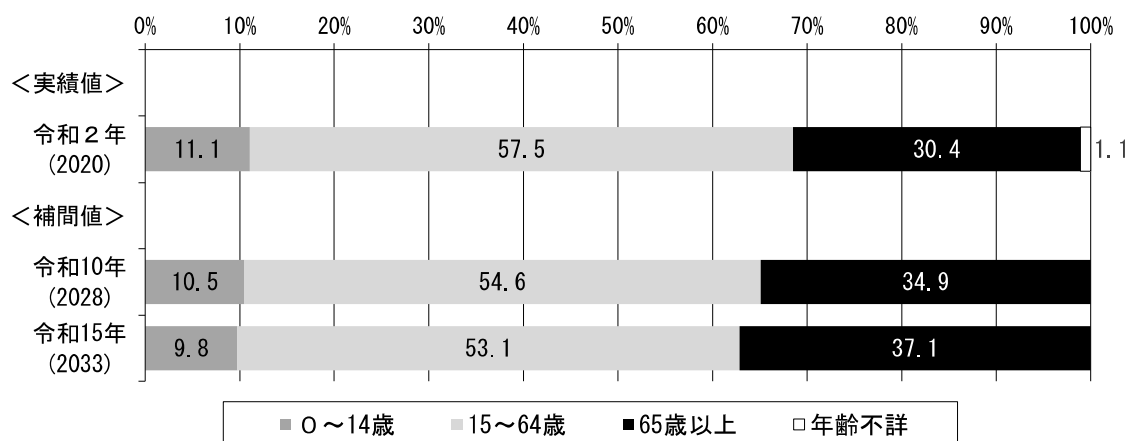
3 年齢3区分別人口

年齢3区分別の人口は、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は減少、老年人口（65歳以上）は緩やかに増加を続け、基準年である令和2（2020）年に対して、目標年（令和15年）で年少人口（0～14歳）が1,696人（▲12.7%）、生産年齢人口（15～64歳）が1万1,361人（▲16.3%）の減少が推定されています。その結果、目標年（令和15年）では、年少人口（0～14歳）の構成比が10%を割り、老年人口（65歳以上）の構成比が37%に達することが見込まれています。

年齢3区分別人口（線形補間値）（令和2（2020）年は国勢調査実績値）



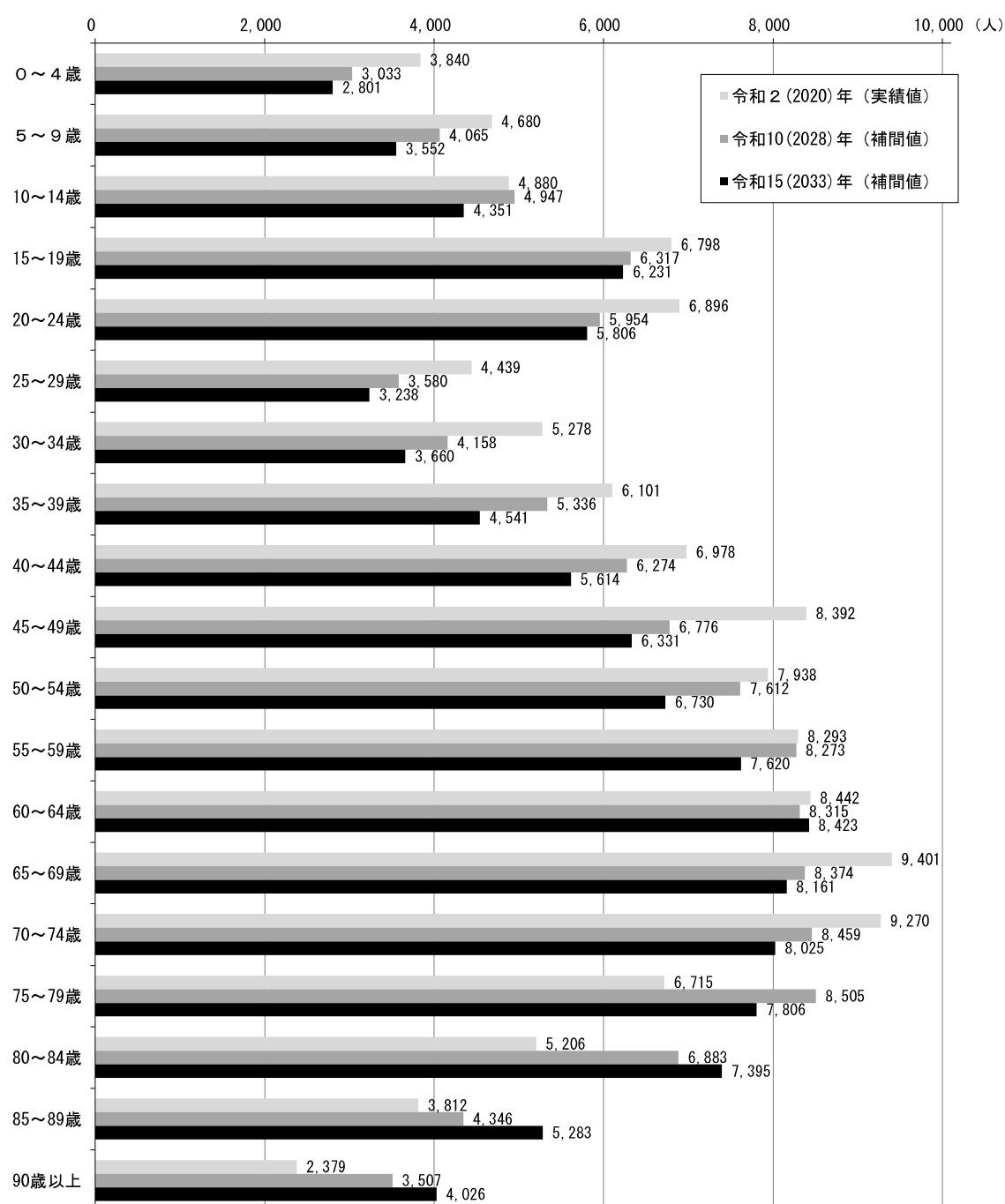
年齢3区分別人口構成比（線形補間値）（令和2（2020）年は国勢調査実績値）



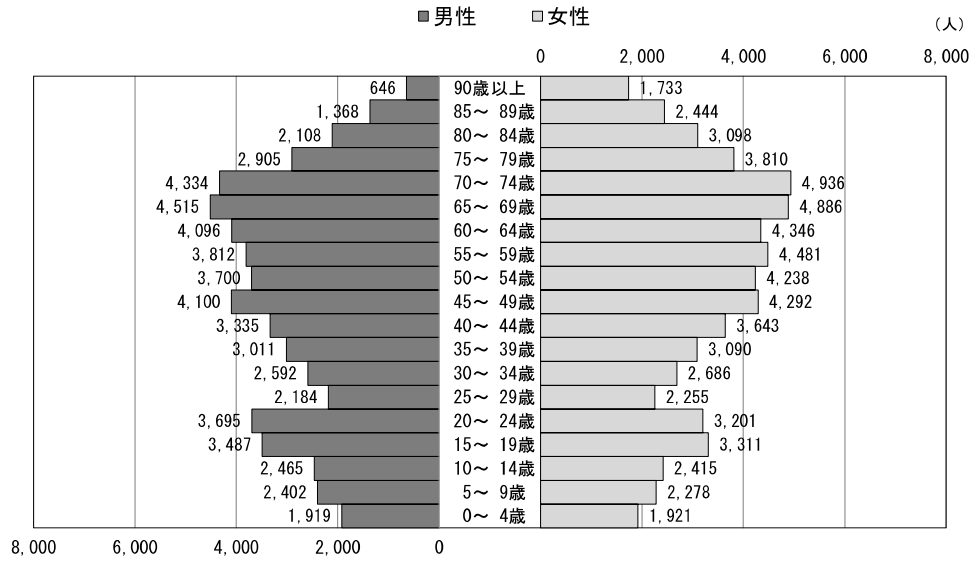
4 年齢5歳階級別人口

年齢5歳階級別の人口は、基準年である令和2（2020）年に対して、中間年（令和10年）、目標年（令和15年）ともに、74歳以下の年齢階級が減少していく中、60～64歳はほぼ横ばいでの推移が推定されています。一方、80歳以上の年齢階級は増加を続けますが、75～79歳は、中間年（令和10年）で増加した後、目標年（令和15年）では減少に転じることが見込まれています。

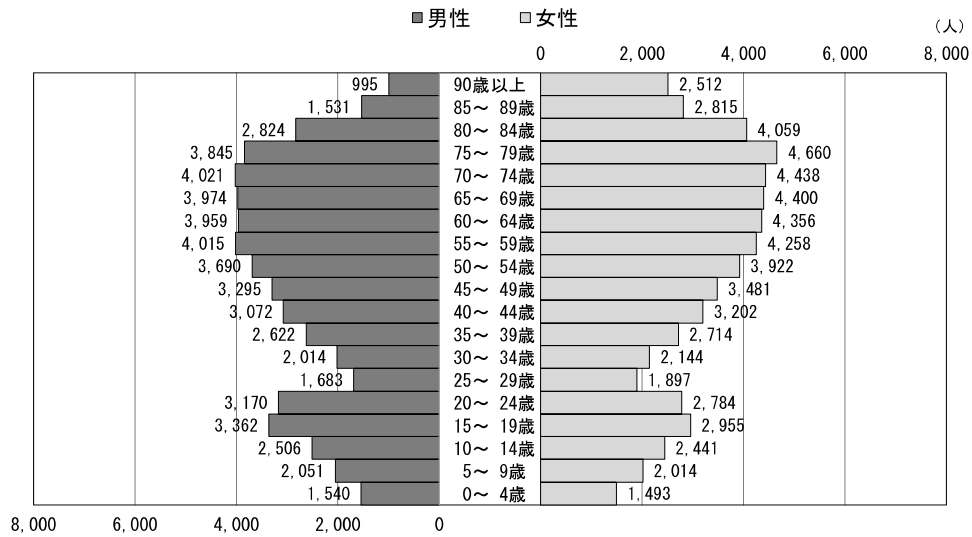
年齢5歳階級別人口（線形補間値）（令和2（2020）年は国勢調査実績値）



令和2(2020)年人口ピラミッド【国勢調査実績値】



令和10(2028)年人口ピラミッド【補間値】



令和20(2033)年人口ピラミッド【補間値】

